

題材の目標

- (1) 墨の濃淡や筆の線の勢いなどが感情にもたらす効果を理解し、墨や筆の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しをもって表している。
- (2) 想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係を考え、墨による表現の効果を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と筆使いや水加減の工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現したい主題を基に構想を練ったり、意図に応じて筆使いや水加減を工夫して表現の学習活動に取り組もうとしている。墨による造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と工夫などについての見方や感じ方を広げる鑑賞活動に取り組もうとしている。

標準的な展開例

【準備等】和紙、色紙、書道用具、パレット、ワークシート、タブレット端末、筆記用具

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 書道用具を見て、どのように使うのかを考える。</p> <p>★墨にはどんな可能性があるだろうか。</p> <p>○水墨画など絵を描けることに気付く。</p> <p>○参考作品をタブレット端末で確認し、感じたことをワークシートに記入する。</p> <p>○タブレット端末を使って、記入した内容をグループで発表し合う。</p> <p>○教科書の2次元コードから水墨画の技法を視聴し、筆の使い方や水の使い方を学ばせる。</p> <p>○振り返りにて、墨には、どんな可能性があるのかを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>2 主題を決定し、さまざまな技法を使って制作する。</p> <p>★墨と水を使って、自分だけの世界を描こう。</p> <p>○墨汁を使って、濃墨、中墨、淡墨を作り、特性を生かした使い方や表現を考える。</p> <p>○実際に濃淡のある墨を使った表現をして、主題を考える。</p> <p>○どのような世界観を表現したいかをワークシートにまとめ、色紙に表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・墨汁だけでなく、墨をすって見せることで道具の使い方を確認させる。 ・水墨画は日本文化であることを意識させる。 ・参考作品の細部に注目をして、表現意図のための墨の濃さや筆の動きを探らせる。 ・「造形的な視点」を確認させる。 <p>【評】造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と筆使いや水加減の工夫などについて考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>【評】墨による造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考える鑑賞の活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P64を参考にして、作品に使われている技法をワークシートに記入する。 ・調べた技法をタブレット端末のワークシートにまとめさせる。 <p>【評】墨や筆の生かし方などを調べる学習を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの見直しをさせ、墨にはどのような可能性があるのかを考えさせる。 <p>【評】墨による造形的なよさや美しさを感じとる鑑賞活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三種類の墨を作るための墨汁と水の分量を考えさせる。 ・教科書P64を参考にさせ、濃淡をいかした表現を行わせる。 ・筆に含んだ墨の量によるかすれやさまざまな表現技法にも注目させる。 <p>【評】墨や筆の生かし方などを身に付け意図に応じて工夫し、制作の順序を考えて作成する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係を考え、墨による表</p>

3 鑑賞会を行う。

★墨による世界を見てみよう。

○級友の作品を鑑賞し、墨による特徴やよさを表現するためにどのような表現の工夫をしたかを話し合い、見方や感じ方を広げる。

○墨で描くことのよさを自分なりにまとめる。

現の効果を工夫した活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【評】表現したい主題を基に構想を練ったり、意図に応じて筆使いや水加減を工夫して表現したりする表現の学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・級友がつくった世界観を表現するためにどのような工夫をしたかを、感想などを交えながら鑑賞させる。

【評】造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と筆使いや水加減の工夫などについて考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・「造形的な視点」を確認させる。

【評】意図に応じた筆使いや水加減を工夫して表現したことを振り返る活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本題材は、小学校から書道で使い慣れている墨が、墨の濃淡やさまざまな技法、筆の種類を変えて使うことで制作において様々な場面で活用できる描画材料であることを学習することがねらいである。また、造形的な視点にも注目させ、色彩表現でも効果的に活用することができることを生徒に実感させ、今後の制作活動においての表現の幅を広げさせる学習となっている。